

カレッジ通信

智辯学園奈良カレッジ小学部

令和2年度 2月号

令和3年2月17日 発行



暦の上では春を迎え、梅の花だよりがちらほらと届く時節となりました。

近畿地方でも、新型コロナウイルス感染症については、感染者の数が随分と減ってきましたが、十都府県に発出された緊急事態宣言はまだ継続中であり、まだまだ油断できない状況です。奈良カレッジでは、中学部の生徒一名のPCR検査陽性反応が判明し、皆様にもご心配をおかけしましたが、お陰様で校内での感染拡大はありませんでした。現在、児童たちも平常通りの落ち着いた学校生活を送ってくれています。

児童たちには話しましたが、いつ、どこで、だれが感染してもおかしくないという意識をもって感染予防を継続しなければならないと思っています。児童たちには、マスク着用・手洗いと消毒・換気、および三密を避けるということを徹底するようにお願いしています。ご家庭でも、今後とも、児童の日々の健康チェックを継続して下さるようご協力をお願いいたします。

さて、児童たちは、22日の文化祭に向けての練習や準備に一所懸命です。特に、先週から今週にかけては、リハーサルや最後の仕上げということもあり、教員も一緒に熱気満々という感じです。例年のことながら児童たちのやる気に満ちた姿は頼もしい限りです。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、文化祭当日は保護者の皆様にご来校いただけないのは誠に残念ですが、DVDを配布するなどして児童の頑張りをご覧いただけるように考えておりますので、なにとぞご容赦ください。

3学期も残り少なくなりましたが、今学年度の仕上げおよび新学年に向けての準備に一層励んでまいりますので、保護者の皆様にもご協力くださいますようお願いいたします。

2～3月の学校行事

月	日	曜	行 事	月	日	曜	行 事
2月	17	水		3月	3	水	
	18	木	中学部進学予定者手続き(第2回)		4	木	
	19	金			5	金	4年到達度テスト・5年実力テスト
	20	土			6	土	算数検定(希望者)
	21	日	奈良フェスタブース説明会(奈良近鉄)		7	日	
	22	月	感謝祭・文化祭		8	月	
	23	火	天皇誕生日		9	火	保護者会(3・4年)
	24	水			10	水	
	25	木			11	木	保護者会(5・6年)
3月	26	金	地域別学校説明会(王寺)	12	金	保護者会(1・2年)	
	27	土		13	土	週休日	
	28	日		14	日		
3月	1	月		15	月		
	2	火		16	火		

新年度の予定は次の通りです。

4/4(日) 中学部高等部入学式
 4/5(月) 4/4(日)の振替休日
 4/6(火) 中学部高等部始業式
 4/7(水) 小学部始業式

4/11(日) 小学部入学式
 4/12(月) 4/11(日)の振替休日
 4/13(火) 新入見保護者オリエンテーション
 4/14(水)～4/16(金) 1年生午前中授業

コンクール受賞結果のお知らせ

児童たちの作品が各コンクールで受賞しましたのでお知らせします。

第66回青少年読書感想文奈良県コンクール

特選

1年1組 杉本賢二郎(すぎもと けんじろう)くん
 「いってみたいタヌキのきょうしつ」

毎日新聞社賞

6年2組 香月蒼太(かづき そうた)くん
 「苦難と挑戦」

1年2組 大林莉々果(おおばやし りりか)さん
 「やまのちょうじょうのきのてっぺん」

佳作

6年1組 池上佳帆(いけがみ かほ)さん
 「奪われた日常」

2年1組 野村果歩(のむら かほ)さん
 「ながーい5ふんみじかい5ふんを読んで」

第69回石上神宮奉納書初大会

入選

5年1組 植田晃規(うえだ こうき)くん

大和川コンクール2020

絵画部門 高学年の部 奈良県知事賞

4年2組 谷本遼太(たにもと りょうた)くん

新型コロナウイルスに関する募金のご報告

2月1日(月)に代表委員会が新型コロナウイルスに関する募金活動を行いました。結果、73,629円の寄付が集まりました。寄付金は全て日本ユニセフ協会新型コロナウイルス緊急募金にお送り致しました。ご協力ありがとうございました。

地域別学校説明会について

今後各地で地域別学校説明会を予定しています。本校に関心のある方にご案内いただけますと幸いです。

王寺町

日時：2月26日(金)10:00～
 場所：王寺町地域交流センター
 リーベル王寺東館5階
 フリールーム3

学校説明会 in OSAKA

日時：3月27日(土)10:00～
 場所：シェラトン都ホテル大阪
 3F 金剛の間

◎各地に赴いて、学校についての説明をさせていただきます。
 ◎来年度の入学試験を考えていらっしゃる方など、本学園に関心のある方なら年齢を問わず参加可能です。

児童の作品紹介

1月号で紹介しました、第64回全国学芸サイエンスコンクールにおいて旺文社赤尾好夫記念賞を受賞した1年2組米嶋梨々花さんの作品と、努力賞を受賞した4年2組小枝祐翔くんの作品を紹介します。

『命はどうしてたいせつなの?』を読んで」

1年2組 米嶋 梨々花

わたしのがっこうには、しゅうきょうのじゅぎょうがあります。じゅぎょうで、命は大せつだとおそわりましたが、どうして大せつなのかわからなかったので、しりたくなってこの本をえらびました。

この本をよんで、わたしたちの命は、「からだ」と「こころ」でできているということがわかりました。

まずは、わたしたちの「からだ」です。ひとは、いろいろなどうぶつやしよくぶつの命をもらって生きています。たとえばおにくをたべるとき、くさの命をうしがたべて、うしの命をわたしたちがたべます。そして、くさをそだてるひとや、うしをそだてて、わたしたちがたべられるようにしてくれるひとがいます。わたしの「からだ」は、みんなにたくさんの命をもらい、たくさんのひとのおかげで大きくなっていることがわかりました。

でも、ときどきそのことをわすれてしまうことがあります。わたしのがっこうでは、ごはんをたべるとき、りょうてをあわせて「いってきのみずにもてんちのめぐみがこもっております。ひとつぶのこめにもばんにんのちからがくわわっております。」とおとなえしてから「いただきます。」といいます。命をもらって生きていくこと、たくさんのひとにささえられていくことをかんしゃしてわすれないようにしたいです。

つぎに、わたしたちの「こころ」です。ひとは、「からだ」だけでなく「こころ」も大せつだとかいてありました。「こころ」は、あいてのことを大せつにおもうきもちが、そのひとの「こころ」にはいり、そのひとの「こころ」のなかに命をそだてているということがわかりました。わたしも、まえにともだちをたすけたとき、「ありがとう。」といってもらえたことがあります。そのとき、わたしの「こころ」がぼかぼかして、やさしいきもちになったことをおもいだしました。わたしは、これからもみんなの「こころ」がしあわせになれるように、ひとを大せつにしていきたいとおもいます。

また、この本に「命は、くらやみのなかからうまれます。」とかいてあります。わたしは、うまれたときのことをおぼえていないけれど、おかあさんが、よくわたしのうまれたときはなしをしてくれます。おとうさんとおかあさんは、わたしがうまれたとき、とてもうれしかったそうです。ガラスみたいにわってしまったらどうしようとすごくこわかったけれど、とてもかわいくて、うまれた命を大せつにしようとおもったそうです。わたしは、おとうさんとおかあさんからもらった命を、ずっと大せつにしようとおもいました。

この本をよんで、わたしの命は、たくさんの命やひとにささえられていることがわかりました。これからも、じぶんの命やどんな命も大せつにしていきたいとおもいます。

「喜びの春のために」

4年2組 小枝 祐翔

「自然は、沈黙した。でも、魔法にかけられたのでもなく敵におそわれたのでもない。すべては、人間が自らまねいた禍이었다。」

レイチェル・カーソン「沈黙の春」

僕はこの文章を読んで、ぞっとしました。今、世界中で、危険で有害な薬物が広く使われている事を知っていたからでした。

「専門家がひき起こす禍いを押しつけられるのは結局私たちなのだ。正確な判断を下すには、事実を十分知らなければならない。」という部分に興味をわいた僕は、本を購入しました。

読み進めていく中で、僕の脳裏に浮かんだのは、以前子供新聞で読んだSDGs（持続可能な開発目標）のことでした。それは2015年に国際連合が、サミットで決めた、人類共通の目標のことです。僕は新聞でこの目標を読んだ時に、この目標について少し考えてみました。考えてみると、この問題は決して簡単ではないことと、そして一つ一つの問題が独立した問題ではないことに気づきました。土壌、海洋の汚染や気候変動で生きる糧である食物や飲み水が脅かされると、飢餓の問題が深刻になります。飢餓の問題が深刻になれば奪い合うために平和がなくなり、戦争や紛争が起これば弱者は虐げられ、貧困や不平等、ジェンダーの問題も解決せず僕たちの未来を繋ぐために大切な教育や仕事にも大きく影響するでしょう。

沈黙の春の中にも、一つの問題を片付けようとしてはつぎからつぎへと禍いを招いてきた、とあります。また、負担は耐えねばならぬとすれば、私たちに知る権利がある、ともあります。SDGsの問題も一つの問題だけを解決するのではなく、十分に事実を知った上でバランスをとって色々な試みもみんな実践していかなければと思います。

冒頭の作者の言葉で、「人間が自らまねいた禍い」である環境問題を、人間が自らよくしていくことも僕は出来ると思います。僕たちの未来が「沈黙の春」になるのか、「喜びの春」に出来るのかは、今、これからの僕たちが、どのように考え、行動していくか、というところにあるのではないかと、思います。

例えば、四年生の社会科の授業でも習ったように、節水をしたり、ごみの分別やエコバッグの持参など、僕たち子どもでも日常生活の中で出来る事は沢山あります。未来に喜びの春を望むならば、僕たち人類の一人一人が、自分たちの未来を思って環境問題に真剣に向き合い、取り組んでいく必要があると思いました。

